



様式第11号（第6条関係）

教育厚生委員会 行政視察 報告書

飯田 大

令和 6 年 7 月 23 日

実施日	令和 6 年 7 月 10 日（水）から 11 日（木）
参加者氏名	三田 忠男、小川 多美子、青木 靖、永岡 康司、鈴木 正人 間野 みどり、鈴木 優治、飯田 大 随員職員 小野 竜太郎
用務先	1) 八潮市八条北小学校 2) 草加市リサイクルセンター 3) 高崎市タワー美術館
対応者 (研修先講師)	1) 八潮市八条北小学校：八潮市教育委員会、八条北小学校校長他 2) 草加市リサイクルセンター：リサイクルセンター長他 3) 高崎市タワー美術館：美術館館長、副館長他
目的・内容	《目的》 1) 八潮市：英語指導力改善事業における外国語教育の現状把握 2) 草加市：不用品リユース事業の現状と今後の課題について 3) 高崎市：複合施設内美術館の現状と課題の把握 《内容》 1) 八潮市：英語指導力、外国語教育授業見学 2) 草加市：リサイクルセンター内リユース品の展示販売場見学 3) 高崎市：複合施設内タワー美術館館長説明と展示品見学
施設概況	1) 八潮市八条北小学校 ○ 児童数75名、学級数 8学級（特別支援学級2） ○ 小中一貫教育研究指定校・学校教育目標、助け合う子・学ぶ子・やりぬく子 ○ 英語指導力改善事業「英語教育改善プラン」に基づき英語教育の課題改善を図り、効果的な取組等の普及を図る。English Dayの実施 2) 草加市リサイクルセンター ○ 人口251, 219名(令和6年)当初予算89, 565, 000千円 ○ ゴミ分別は大きく分けて可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、飲料用缶、飲料用ビン、ペットボトル、古紙の7種類 ○ リユース事業の実績は平成28年2月から令和6年5月の間、約20tの粗大ごみをリユースした。 ○ 出品数と販売数は工夫をしながらすべて売却できている。

	3) 高崎市タワー美術館 ○ JR高崎駅前高層ビル内の3、4階展示スペース ○ 入場者数 令和 3年度 16,229人、4年度 16,495人 5年度20,227人 ○ 美術館歳入・歳出 令和 2年度 3,504・85,372千円、 4年度 2,920・87,393千円 5年度 2,785・87,509千円
成果・所感	1) 八潮市八条北小学校 ○ 1学年1学級の小規模学校、施設分離型小中一貫教育を推進中 ○ 英語教育授業では教師の発音、声の大きさ、ジェスチャーでの表現力や児童が学友と全身で楽しんでの学習に教育の本質を感じ取れた。文法より、語学力の重要性を学んだ。 ○ PRポイントのEnglish Dayは年間40日、金曜日に実施している。 2) 草加市リサイクルセンター ○ 東京都近郊都市で住民の移動頻度が多く、粗大ごみのうち使用できるものが多くみられる。 ○ リユース品は回収時、所有者の了解を得て手数料なしで売却。 ○ 販売は市内在住者に月1回、第4土曜日に購入希望者へ先着順に売却する。 ○ 展示販売事業は出品数と販売がほぼ同数であり売れ残りなど在庫となることは少ない。本庁舎フロアに展示、他ホームページで展示している。家具類が多い。 ○ 伊豆市においてもごみの減量化リサイクル意識の高揚、物を大切にする精神からリユース事業の推進を望みます。 3) 高崎市タワー美術館 ○ 運営収支に関し市民からは具体的意見は出ていない。 ○ 利便性が良く、複合施設内、近隣施設など他の利用者の入館が見込める。 ○ 展覧会は年に5～6回開催している。展示品は50～60点総入れ替えをする。保管美術品121点は少ない。美術館同士での作品の貸し借りは通常行われている。寄贈は贋作、同類作品などを注意、考慮受け入れは厳しい。 ○ 複合施設内のため、管内セキュリティ、防火に不安がある。 ○ 伊豆市の美術館構想と36万人都市の美術館運営状況との条件の違いはあるものの、地方の小都市での新たな美術館開設は根本的なところから見直しが必要と思われる。